



THE SAKURA

第二号  
'67-2-1  
ボートマガジン  
東京 103

SUPPORT BUT DO

NOT CONTROL

育成会々長 岡本泉

団報発行おめでとうございませう。編集委員の皆さんごころさま。おかげで皆様の御活躍の棟祿が大部わかって参りました。ありがとうございます。今后もより多くの動向、御意見がうかがえたいいなと思ひます。人を顔かたちで判断したらずよ、とした言動で「ききり」なんてきめてしまわずに、よくかみしめてみることをめいめいたいに味が出てくるものだと思ひます。今日、B.S.の訓練なるもの巻のどかして頂いて感じました。訓練はなごやかな内にも「びしく」やつて居ら水まずじ、ボール投げではリーダもスカウト達も一しよになつて愉快なころやまわつてゐるのを見て、ひとりでに顔がほころびて参りました。リーダも同志もパートナーシップを築押して居られた様でうれしかつた。

最近おそわつたばかりでよくおぼえてゐるのは「封建的指導」と「民主的指導」の区別です。一人で承知していて部下には教えず「君主制的指導」をするのが封建的指導だそうで、そんなこ

とでは後輩は不用、育ちません。私は互相互理解に基づく集団指導性」と上記の「支援はするか制卸しない」と。原則を「あきらめる指導者」が基本原理にしてほしいと思ふのです。又B.S.の特徴ともゆうべきパトロールシステム、は横の連絡は云はずもかな、たてにも、途中に「定」のあかない「態」勢であつてほしいし、出来れば、C.S.、B.S.、S.S.の連絡もうまく行く様にして頂きたいものだと思ひます。その様な意味合いから、今回の団報の発行が非常に重大な意義を持つものと確信しますし、これを機会に積極的「話し合い」をして下さい。お互いにえんりよなく、向とも云い合える人間関係、その様を「ぶんい」をつくり出してください。出来上りの内容よりその過程で皆さんの相互理解と連絡がうまく行くことの方がより大事であり必ずや多大の成果を期し得るものと思ひますので、もう一度おめどとうをいわせて頂きます。わたくしたちもおべんきようさせて頂きたのりです。



# スカウトの作文

## ある私感

年長班 吉田 明見

日本における資本主義の発展は利害關係による社会的環境条件を住みよせられかねない孤立を住みよせ金になるもの、「利益になるもの」といふ時代をつくり出してしまつた。さういふものが僕達の生活の中にも入り込み、無批判に受け入れられるところに問題があるのではないだろうか？ 低俗な月刊紙や週刊誌の横行、ラジオの横行、シヤズ喫茶の盛きよう、これらを無批判に受け入れる人間、このようになんか栄え「お金にならないもの」「利益にならないもの」を押し流す風潮は世界を「お金しだい」として、あなたを空気の支配を許しているのです。そしてそれが間接的にも青年の心を去らして、かかつての「非常識」といつのまにか「常識」のレベルまで高めてしまつたのです。狂つた社会といふ名前を呼ばれるものは現在新聞の三面記事ににぎわすだけの事件でも非常識の常識化がいかに進んでいくかを示し安んじて住まざる場所が失われつつあります。

これに対する例も教えればきりがないが「狂つた社会」「貧しい社会」の象徴であることを自覚しなければならぬと思つた。又青年期の僕達の心理は自分自身さえも解かせない複雑な要素があります。「反抗」する気持ちもその一つ

でしよう。が未来につなからぬ反抗は無意味でしよう。僕達は自己の内底にわき上る気持ちを率直に出して建設的にいかなければならぬでしよう。人間が主体を失つてゐる今日の生活にさういふ疎外から脱出するため「非行」といふ法もあるたうし「死」もあると思つた。未来とのつながりのない脱却はおろか疎外の現場の上に立つてもつと未来につなかる勉強が大切だと思ひます。これがなれたら、おとなの人間が、出した課題だと思ひます。明るく未来に向かつて一つずつレオンかを積みあげることか今の僕達に必要なことではないでしようか、僕達青年はいのち（生命）が有るかぎり責任を負つて生きて行くこととする努力を続けていきたいものです。現代人間として必要な人間性、つまり人間の生命価値、創造性を大切にすると、つまり全ての人に持つてもらいたいと思ひ、強く望みまた期待したい。



"Be Prepared"



# B.S. 2月のプログラム

5日	日	この二日の中 一日は野球ハイク
12日	日	他の一日は休み
19日	日	隊集会 ・九品山 ・9:00~12:00
26日	日	隊集会 ・九品山 ・9:00~12:00

## 一月の動き

○一月八日

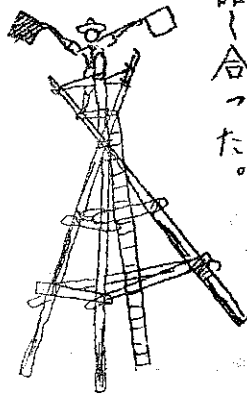
新潟春巴門しがド  
 池上本まびしら山王小校  
 当日はスキーの多教が加し  
 都内の総長の新年交換の進  
 久留島の道の程を元気に進  
 約四キロの道の程を元気に進

○一月十五日

隊集会  
 宇差神社にお旗掲げ練習  
 宇差神社にお旗掲げ練習  
 宇差神社にお旗掲げ練習  
 宇差神社にお旗掲げ練習

○一月二十日

九時二十時練習  
 九時二十時練習  
 九時二十時練習  
 九時二十時練習



# たこあげ

四組 大塚 新一

一月三日、えんげい学校のグランドで、弟とたこあげをした。たけしは行く時から「よにいち、んい、風がぬいのにたこ上がるかな」と、ぼくに聞いた。ぼくは「きつとあがるさ」と答えた。グランドについて、上げるとなると、弟の言。たぶうに風がないのでたこはなかなあからなかつた。でも時々風がふく、そのたびに、ぼくは弟にたこを持たせて、あげようとしてみようか、すぐ風がなくなつた。たこは落ちてしまふ。こついう事を何回となく、くりかえすかたこはあからない。弟は「や、ぱりあからないぬ。あたにちゃんやめよな。」といふ。ぼくもいやいあして来た。そして、糸をまきはじめた。さうすると、急に風がふいて来た。糸を出しては走り、糸を出しては走りながら、たこをあげた。こんどはあがつた。でも風が強まぎて、たこはくるくると回わつてあからない。また、たこをあつして、しつぽを長くつらした。さうしたら風がやんでしまつた。しばらくするとまた風がふいて来た。こんどは、しつぽの長さもちよどよく、さうとよくあがつた。そして、こんどは糸をどんと出した。さいごまで出して弟とかわりばんこ、少しづつもつて、まきはじめた。

# お正月

六組 舟生 哲也

ぼくはお正月に京都へ行きました。行きには朝十時発の新大阪行きの特急に乗りました。そして午後一時二十分には京都へつきました。こちでつ未原で雪のため十分ぐらいよくれました。京都からは松江行きの急行、白とに乗るつまでした。が、発車が三時半なのと乗るのつやめ一時四十分発のどん行に乗りました。汽車の中で「グー」ぬまつたりしていらつちには、ぼくたちばかり西まいづるの駅につきました。駅にはおちやんが自動車で去かえ下きてくれていました。ぼくはちねさねに乗つてし高の家に行きました。ついたときはもう六時でした。ぼくは行ってつかれたのですぐにあまりました。朝になつてぼくは、十時ごろ起きました。ぼくはまずはいじめに雪が、せんをしました。あたにちゃんには雪が、せんをしました。いさち、びこで手を切つて病院へ行きました。ぼくたちは、雪が。せんをやめ、そして、おもちを食べました。それから朝ごはんはせんもおもちをつきに行きました。ぼくたちはもう返してさとしてまいばん同じようなくとまくり返して、いるうちに帰るとときかやつてきました。お正月ももうたしやりたいことはなんでもした。いからうれしくして、京都から新幹線にのつて、お正月

# ★シリダリ紹介

○品田温子——カブ隊副長  
 ○松下由美子——カブ隊副長  
 ○二人共自分の仕事が忙しくカブ集会の方はさぼりが多い。そのくせ副長という名前がついているのでよきこんでいる○○。女性シリダリである。

○小野き勝え——カブ隊副長  
 (ニニヤ・独身)  
 自分の役取も知らず、今年一年向全々出席をしなかつた人、それでいてスキーシーズンになるとハツスルして雪の山へ一番に滑えていっちやうシリダリ。

○横溝一郎——カブ隊副長補  
 尾平和聡——カブ隊副長補  
 この両君共に大学一年生でこの一年向若さあふれる活動をしてくれ隊長をよろこばせたりシリダリである。

特に尾平君は十一月になり別名がついた。その名もシリダリ。ズの中のシリダリ。フターヤンによくにているところからシリダリと命名した。今年も一年向の活躍が期待されていきます。

## 団会議報告

一月十五日  
 岡本育成会々長宅  
 七時〜九時  
 議題 来年度のスカウト、シリダリの登録について

今回の団会議は久し振りの会議で新年に当ってこれからの三団のあり方を話し合ひ、今後のお互いの協力について討議がなされた。

## BIPの言葉

スマイルはどんな困難にもうさかつ勇氣を与える。どんな困難にも、苦しみに、危険にもスマイルで接することの出来る人は、自分自身に確信をもてるのみばかりではなく周囲の誰にもスマイルを与える。



## 今日のうた

チエツ、チエツ、コレクトウ、  
 チエツ、チエツ、コレクトウ、  
 ニサンサ、マンガン  
 ニサンサ、マンガン  
 コンマン、チエチエ  
 コンマン、チエチエ  
 チエツ、チエツ、コレクトウ、  
 チエツ、チエツ、コレクトウ、  
 ニサンサ、マンガン  
 ニサンサ、マンガン  
 コンマン、チエチエ



## 編集後記

今回から紙面が一枚ふえた。一まつ不安はぬぐいされなり。このことと共に内容の方も一層充実するようにならば、つもりだ、吉田、横溝、西山、今川、尾平。